

第 11 回 図書館建設運営委員会

日 時 平成 20 年 10 月 7 日(火) 18:30~20:30
場 所 公民館 講堂
出席者 専門部会委員 11 名 聴講者 2 名
ナスカ一級建築士事務所 古谷氏、八木氏、杉下氏
市村町長、市川教育長、富岡参事、花井館長
事務局 2 名
職員プロジェクトチーム 5 名

議事録

1. 開 会

2. 町長あいさつ

(町 長) 災害もなく、心配した 13 号、14 号、15 号の台風も逸れてくれて、今実りの秋ということで、嬉しくこの秋を迎えています。一方では皆さん方大変ご心配かと思えますけれども、この春以来の原油から始まった諸物価の高騰。そういう事で実際上の好景気というものが我々は実感にないわけですが、それにやや陰りが見えているところへ、去年からのアメリカに端を発する金融不安が全世界を覆うという、非常に暗雲が垂れ込めて大きな影を落としており、心配をしている所です。

今日お集まりいただきました。本当に久しぶりになってしまいましたが、これもご承知のように図書館の建設につきましても、世界の経済の流れというものが大変大きな影響を与えているわけでございます。皆さんご承知のところですが、何時間にもわたるナスカの皆さんと、或いはそれ以前からの話、それらを総合して、7月上旬に古谷先生のほうで実施設計をまとめていただき、7月24日に入札をしたところ、不調に終わってしまうという、非常に思いがけない事態に見舞われました。これも先般のわくわく通信の号外でお知らせをしたところではありますが、7月24日以来私どもと古谷先生を中心とするナスカさんと大変細かい打ち合わせをさせていただきました。そしてなぜそういう事態になってしまったのかということについて、何度となく話し合いをしてまいり、約1ヵ月半かかりました。そういう中で、必死に原因を探って対策を打たねばならないということであり、分析表を作っただき、私どもとも、それぞれの分野の専門家のご意見も充分にお聞きして、その原因追及をされたわけですが、やはり原油高に端を発した高騰、中でも建築資材の高騰が予想を越えて大きく影響を与えたということです。そういうことではありましたが、古谷先

生、或いはナスカの皆さんに、私どもは随分失礼なことも申し上げてきました。そしてその資材の高騰だけではなく、そのデザイン性に問題があるのではないか、或いは建設の工事の難しさにも原因があるのではないかというような事も徹底的に解明していただきたいと…。最終的に我々の方からお願い申し上げたのは、何十回にもわたる皆さんの情熱の塊と申しますか、熱意の表れである、その図書館機能は一個も無くしてはならないんだと。ただ形状とかデザインとか、そういうものについてもし難しさがあるのなら、これは曲げてでも設計変更していただかなくては困るというような事も申し上げてきました。その結果、1,000平米の広さと、皆さん方からのご要望の機能をきっちり守るということについていえば、どうしても資材上の問題でこれだけの物が足りなくなるというような最終的なお話がナスカさんの方からあり、私のほうでも及ばずながら調査の結果、そういう結果が出ました。ということは、その分については予算の補正をしなければならないということです。そこで、先月8日から始まった議会でご説明申し上げ、機能を落とさないで設計変更ということをしていただくのだが、その分これだけ足りないので補正をお願いしますということでご理解をいただき、補正ということになりました。

実際、よその事を申し上げてもしょうがないのですが、公共事業というのはこれまでと違い、このところ頻繁にといっているほど不調が起っています。そのへんを議会の皆さんにもご理解をいただきました。そして議決をいただきましたので、22日に再入札を行い、やっけていただく業者の方を落札しました。そして9月25日、これも議会で、その業者さんとの契約を議決していただいたというわけです。その議会の前に町政懇談会ということで、町の中を回らせていただきましたけれど、調査中の質問を何回かいただきました。どういうことなのか説明してくれということなんですけれども、その時点では一生懸命詰めている時で、補正予算というものも必要だなと、議会にもお話ししなければいけないという状態でしたので、今こういう形で必要になってきますと、もうしばらくお待ちいただきたいということをお願いしたわけでありまして。今日は古谷先生のほうから詳細なお話もあろうかと思っております。

それからもう一つ申し上げておきたいことは、補正を組みましたので、予算と財源の問題、お金をどうするのということです。当初から、町民の皆さんの御努力によって積み立てをしてきた基金と、それから交付金とこの二つでもって造りましょうということでご理解をいただけてきました。このために新たな借入れはしませんということで進めてきたところですが、では、補正についてはどうするのかということですが、平成19年度に町民の皆さんと私どもとの協働の町づくりの成果ということだろうと思っておりますけれども、2億3,000万円ほどの繰り越し、黒字が出ています。その分積み立てるわけですが、そこから4,000

万使わせていただくということで議会で議決をいただきました。つまり、補正についても借り入れはしないといけないということです。この間 2 ヶ月遅れてしまいました。この 2 ヶ月、今も落札していただいた業者さんは鉄骨を初めとする資材の確保に奔走していただいているとお聞きしておりますけれども、この 22 日には地鎮祭も行う、まことに皆さん方ご出席いただきたいところではありますが、リスタートであります。どうかこれまで以上の情熱をお持ちいただいて新しい図書館の建設に更なるご尽力を心よりお願い申し上げたいと思います。後ほどご説明あろうかと思いますが、外構などにつきましても、削れるだけ削ってあります。もしかしたら皆さんと一緒に木を植えていただいて育てるなどということも考えなければならぬかもしれません。そんなことも頭に置いていただきまして、新しい図書館の建設に邁進したいと思います。どうもありがとうございます。これからもよろしく願いいたします。

3. あいさつ

(委員長) 皆さんこんばんは。本日は東京から古谷先生、八木さん、杉下さんにおいでいただきましてありがとうございました。今、町長の話は主にハードの関係でしたが、このあと事務局からの説明もありますが、電算化、ソフトの部分の契約もこの 2 ヶ月の間にまとまりました。この 2 ヶ月でようやく両方整ったということで、私たちは再びこれからがんばる舞台ができたと考え、前向きに議論していきたいと思います。お金がない時に人間がやるべきことは二つしかなくて、汗を出すか、知恵を絞るかしかありません。自立・協働の町を掲げている小布施町にとっては小布施らしい、いいチャンスだと思いますので、ぜひ花井館長の下で、来年の開館に向け、みんなで力を合わせて、新しい仲間も呼び込みながら進めていきたいと思っておりますのでよろしくお願いいたします。

4. 事務局から入札に至るまでの経緯と報告

(事務局) 図書館建設運営委員会全体会は、6月23日に第10回が行われまして、それ以来の全体会になります。だいぶご無沙汰してしまいましたが、その間、町では入札に向けて起工伺いや、選定委員会を開いて業者を選定させていただいたり、建設自体に関しては共同企業体というものを組んでいただいたり、そういったことを進めてきました。先程町長から説明もあつたとおり24日に建設主体、機械設備、電気設備の3つの工事に分けて、それぞれ入札を行ったところです。その結果、機械設備、電気設備に関しては落札業者がりましたが、建設主体の入札が不調になってしまいました。不調の原因として、原材料の高騰、特に、骨材の値上がり原因であると分析しました。建設物価等で見ますと、骨材が今年2月から4月までに50%以上値上がりしている状態で、実際の骨材の単価

はこれ以上ということ把握できたところです。事務局では設計事務所と毎日のように何度も電話やメールなどで合議し設計の計算見直しを行いました。また教育委員会内だけではなく、町長、副町長を交えたナスカさんとの打ち合わせも行い、次の入札には落札業者が出るようにということで、最善策を模索してきたところです。結果、町民の皆さんの図書館に対する要望を変えない範囲で実施設計の見直しや変更を行い、それでも足りない範囲に関しては 4,742 万円の補正予算で対応していきたいと考え、現在に至っています。

9月議会では今回、図書館の補正予算を提出し、今月8日に承認をいただき、22日に行った再入札で、本体受け入れの業者が決まりました。落札業者と仮契約を結んで25日に議会の承認をいただき正式契約となりました。今後、先程町長からもお話のありましたとおり、スケジュールやお日柄も考慮し、10月22日に起工式、安全祈願祭を行う予定になっております。

電算化につきましても並行して行ってきました。5月29日に第10回電算化部会を行ったところ、統一した仕様書を作成して金額等を含めた比較検討をしたいというご意見が出ましたので、事務局が中心となって見積書を業者に依頼した経過があります。6月11日に、作成した仕様書に基づいて4社の業者に見積書の提出と、併せてプレゼンテーションの依頼を行いました。そして6月20日、見積書の結果を取りまとめ、電算化プレゼンテーションの業者の選定資料として作成しました。実際に6月26日に電算化プレゼンテーションを行い、終了後具体的に良いと思った業者を皆さんから報告してもらいました。なお、電算化プレゼンテーションには、教育委員会、電算化部会正副部会長、役場のプロジェクトチームの電算化担当者に参加していただきました。その後、何回か役場内で業者選定に向かって会議を開き、また、改めて仕様書を見直し、足りない部分については業者に見積書を再提出していただき、最低価格を提示された早稲田システム開発株式会社さんと契約を結ぶ経過となりました。以上です。

5. 会議事項

(1) 設計者古谷氏からの報告

(委員長) それでは会議事項に入ります。設計者古谷先生から報告と質疑応答ということで、先生お願いします。

(古 谷) 皆さんこんばんは。大変ご無沙汰をいたしました。また同時に大変ご心配をおかけいたしまして申し訳ありません。先程町長さんよりお話がございましたが、7月に皆さんのご要望を取りまとめる形で設計をまとめ、その段階では金額、私どもの見積もりを取り、それを入札にかけるというところまで参りました。入札日直前まで、それが落札可能であるかどうかということは考えていたわけですが、正直、昨今の原油高から始まる鉄骨資材の異常な高騰というのがあり、

実は私の中では不安がなかったわけではありません。ですが、設計者として出す見積もりとしては、公共工事の建物に関してはそこに入れるべき金額の基準があり、公表されている基準に基づいて設計単価を積み上げざるを得ないという背景がありまして、町の担当の皆さんとも協議しながら、ぎりぎりのところでそれが落札可能と判断して設計書を取りまとめました。そこには小布施のこの仕事の為に、一肌脱いでくださる企業があるのではないかという期待もありましたが、しかし、我々の望みとはかけ離れているほど今現在の世界的な建築市場の原油高による資材難が深刻な状態に立ち至っていました。皆様とご相談した3月頃までの内容が盛り込まれた実施設計がまとまったのは6月頃ですが、その間だけでも先程ご紹介あったように2月から4月までに5割増以上高騰してしまうという背景もありました。これはひとえに鉄骨の世界的な品薄から発生しているわけで、皆さんもお聞き及びだと思いますが、中国で今鉄骨資材の需要が大変高いため、国内に鉄骨が殆ど出回らないという状況にあり、全国レベルの大きな建設会社から順番にそれを押さえていってしまうという実状もあって、なかなか通常の値段で入手することが困難という、そういうことです。私にとっても、せっかく創り上げた設計が不調に終わるということで、事態を大変深刻に受け止めまして、その後、町長さん、事務局からご報告をいただいたとおり、何とかこれを落札可能な状態で、且つ、皆様からいただいていた要望を基本的には反故にしない形、それを受け止めた形での設計でまとめられないかということをお考えしてきまして、結果、先月無事落札いたしました。その内容に関する報告が今日のメインです。

当初から電算化を含めた総事業費3億5,000万円ということで承っており、それを念頭において何にどれぐらい使えるかということをやってきました。特に建築の部分に関してはかなり大幅な価格の差が出てしまい、これを埋めるにはいくつかの方法が考えられました。例えば、面積をそれ相応に減らすとか、それに盛り込まれていた機能の幾ばくかは諦めるとか、そういう削って合わせるという方法もあるのですが、背景が背景なだけにこの鉄骨自体の上昇、それから原油高もあって、運搬費から何からみんな上がってしまっていて、その上昇分を何とか図書館機能を損なわないために、補正予算等の処置を講じていただき上乘せしていただくことはできないでしょうか…というお願いを町長さんはじめ、町の皆さんにして参りました。これも先程ご報告にあったとおり、4,742万円の補正予算を組んでいただきました。つまり、大切な税金等の中からそれを工面していただいたわけですが、それを充てさせていただきたい。

一方で、建築の入札をしますと、私たちの画いた図面の造る方法にもいろいろあり、造る手間のかけ方によって大幅にコストが変わってくることもままあります。なんとかこの地域の建設会社が施工可能な方法、それら細かいことの

協議を重ね、その部分で可能な限り、設計の基本は全く変わらないけれど、組み立て方や手間のかけ方を努力することでできないかという調整も併せて行ってきました。それでかなりこういう方法でできるだろうというふうになった部分もあったのですが、その中に幾つか、どうしてもその方法、その形が、その金額では施工不能という部分が残りました。それが本日お目にかける設計変更案につながっています。単純に鉄骨の値段と原油高の高騰分だけでしたら先程の補正予算だけで充分充当できますが、それ以外に、いくら調整しても最後に残った開きの部分がありまして、その部分をいささか設計・施工の方法や材料等を入れ替えさせていただきました。お手元に、1枚紙の小布施町立図書館交流センター設計の変更リストが配られたかと思います。これ以外にも細かい、本当にネジ釘一本に至るまで少しでも安いものに置き換えられないかということはやってきましたが、皆様に今日ご説明すべきと判断した主要な変更点をここにリストにしてあります。それを順を追ってご説明いたします。今日の説明は、前半でこの間不調に終わったのを経て今回、最終設計案としてまとまったものの説明を、後半で設計の仕様変更についてというもの、これを織り交ぜてご説明させていただきたいと思います。

まず、配置案です。これについてはもとより変わっていませんが、今一度ご確認いただきたいと思います。小布施の駅前がありまして、駅前からひとつ入ったところに立地しているというこの図書館の特性を勘案し、実際にはこれがいろいろな所から通り抜け可能な道ですから、ぐるぐるっと周りを回れるような形ということでまずこの形が始まっています。あとでまたご説明しますが、そこにできるだけたくさん緑を植えて森の中にある図書館として、小布施の町、町の中心部を繋ぐ一つの交流の拠点にしようということでした。この場所に置く建築の形態として、どちらかという閉鎖的な本のお蔵に当たる部分と、図書館でいうところの比較的開放的で皆さん一人一人顔が見合わせられるような、オープンな雰囲気で作る部分の二つを組み合わせた造形になっている。今一度ご報告しておきたいのは、この大きな空間の中にはたった3本しか柱が立っていないという構造です。ここに1本、ここに1本、ここに1本。上について少し頬杖をつくように肩を開いていますけれども、この中には12mほどの距離をもって立っている3本の柱しかない。あとは全部外周壁で支えられているという、そういう構造です。これが鉄骨構造を採用した最も大きな理由です。ここにこれだけ柱と柱のあいだをとばして大きなスペース、どういうふうにも自由に使えるスペースを取る為には、鉄骨以外の方法を取ると、例えば鉄筋コンクリートで造れる。造れますがこの一つ一つの柱は数倍大きな柱になってしまいます。そうするとこの中の空間の一体性というのはやはり大きな柱があった分だけ邪魔になる。一方でこれを木造で造るという方法もあります。

現に私は不調に終わってからこれを木造に置き換えることで価格を下げることはできないだろうかという検討をしたんですけれども、木造にするとこの 12m の間隔をおいて柱をとばすことはできません。そこでこの中にもう何本もの柱を入れていくことでしかワンルームの大きな空間を造ることができなくなります。柱の形そのものは、木造ですからそんなに太くはなりません。しかし本数がやたら増えて、そうすると柱をどかすことができないプランになりますので、将来の使い勝手を考えた上でやっぱりそれも得策ではない。ということで、鉄骨の高騰は背景にあることは十分に承知していたんですが、あえてこの小布施の図書館としてはやはり鉄骨を採用しできるだけ細い柱で、スパンというんですけれども、距離をとばして中に自由に使える空間を残す。こういう方法を採用すべきだと考えました。今回の案も基本的にそのことは変えていません。実際には、これだけのスペースの中をこれだけの細さで支えられるということが一つの大きな特徴になっています。それ以外は外壁のところに並んでいる柱で支えているので、別に構造的に不安があるわけではありませんが、中は非常に開放感がある。それに対してさっき本のお蔵と申しました比較的閉鎖的な部屋。主に閉架書庫や調査閲覧室であるとか、或いは多目的に使える部屋。それから事務所や機械室。これらは柱をとばしておく理由がないので、できるだけ細かく柱をいれて、経済的に造る。その壁で作るという方法を採用してあります。最終案においても基本的な内容は変わっていません。特に図書館の蔵書室、これは最初にお約束した蔵書の本数がそのまま入っています。ですから面積も小さくなっていませんし、余計な柱も立っていません。閉架書庫で約 3 万 8,000 冊。調査閲覧室におそらく 4,000 冊ありますので、合計して後ろのゾーンで約 4 万 2,000 冊。一方開架書庫は、この真ん中の三角地帯の中央部分だけで約 3 万 1,000 冊。そして周りの窓に面した外周に開架書庫が並んでいます。ここに大体 4,000 冊。合わせて 3 万 5,000 冊がここにあり、それらの本棚がこういう形でスチール製の本棚に入っていて、これは設計から減らしていません。更に児童コーナーの部分に絵本で 5,000 冊。ここまでの、開架書庫でお約束の 4 万冊を収容し且つ、それに加えて紙芝居を約 500 冊収容できるように現在考えています。これらが児童書コーナーのところの本棚の詳細です。設計図はこのように棚の一つ一つにまで細かい寸法を与えて、材料を決めて造ります。

つとに話題になっていたコンシェルジェカウンターです。これもこのような形で最終的な設計を完了し入札の中に含まれています。

一方で、それではどこを減らしたのかということですが、画面上で出てくる順番でご説明します。ここに円形状の卵形のトイレがあります。トイレの中の数は減っていません。女子は便器が二つあって、男子は大 1、小 2。それから多目的に使える、車椅子でも使えるトイレです。この壁は厚ければ厚いほど使

えないところが多いので、薄い方がトイレの中も広く取れるし、外のスペースも残るといことで、できるだけ薄い構造で作りたと思って鉄板構造というのを採用していましたが、これも一つ高くなる原因でした。そこで、いささか壁は厚くなりますが、通常の壁下地、軽量鉄骨下地にボードで張っていくという、ごく普通の方法に改めました。

また、多くは皆さんのご要望を裏切らなかつたはずだといながら、一つ無くなっているものがあります。この多目的ルームに、場合によっては二つに仕切って使えるようにといことで、原設計ではホテルの宴会場を二つに割る時に使うような、スライディングウォールという可動間仕切りが入っていました。これを花井館長さんたちとご相談の上で、使い方何かカバーできるのではないかといことで、この可動間仕切りを撤廃しました。1室で使う時にはもちろん問題ありません。そして2室で使う時に何かしらの間仕切りを設置することでご対応いただけないだろうか。或いはここの部屋と北斎ホールの別の部屋を使い分けていただくとか、そういう運用の仕方ですていただけないかとい、やるとしても軽微な衝立で二つを仕切って、作業グループが二つに分かれているといような時にそういう使い方をすていただく点がございます。

それからこの屋根の形ですが、これに関してはかなり改変した点があります。元々は、これは景観的なことで何回もご説明してきましたけれども、この場所に建てるにあたって、この北信濃の緩やかな地形の中で屋根の形をここに映したい。それを燻し瓦の色の金属材料で葺いて、色彩的には瓦に合わせて、形態的にはむしろ周囲の山や森の形を映したいといふうに言て参ったものです。元々はここに、屋根の形なりに曲げ加工をした鉄骨材が入れてありました。それは買ってきた鉄骨をもう一度曲げる工場に出して、ある曲率で曲げていく。そうすると、全部曲げることでそれに対して均一な厚みを取ったりすることができまから、屋根の仕事としては簡単になるんですけど、鉄骨の方としては曲げ加工のコストがかかる。そういう選択をすていましたが、特にこの鉄骨材関連の、素材も加工もすべて値上がりしている状況がありましたので、ここでは買ってきたままの直線材だけで構成できる形に造り変えました。実はこれが、時間がかかる大きな元で、これをやると構造の計算、そうしたのから一からやり直しになってくるものすから、少し躊躇したのですが、不調に終わる事態となるとそうも言ていられない。といことで、不調後、これはもうやむを得ないといことで屋根の材を替えるとい大変更をさすていただきました。

それからそれに伴って、山なりに成形した鉄骨をすていた時には、そこに二重の屋根を造って、コールドルーフといものを造るといご説明をすていました。この山なりの上に薄い屋根の表面材を造ってその中を外気と同じ空気

を流すことで、室内で暖められた空気の温度が屋根の表面に伝わらないという、北海道などでつらら対策やすがもれ対策でさかんに使われている方法です。つらら対策等を十分講じるようお話があったものですから、寒冷地の対策に詳しい、それを専門にやっている研究所の協力を得て、コールドルーフ案を提案していたのですが、この二重屋根も実はお金がかかる原因の中に含まれていました。そこで、この地域の建築業者さんと、つらら対策やすがもれ対策の実情についてヒアリングを重ねたところ、この地域ではコールドルーフまでを採用することは殆どないと。かえってそれを未熟な、そういうことに慣れていない施工者が作ると初期の目的、効果を発揮できないかもしれない。一方でこの地域では通常どこの建物でもこれだけの断熱性能を屋根に持たせることで、必ずしもコールドルーフまで採用しなくてもそれなりのつらら対策、すがもれ対策ができるはずである。そういうご意見やご助言をあちこちからいただきましたので、価格を下げるという意味でコールドルーフを取りやめました。実際には鉄骨部分にそれに代わる性能を与えなくてははいけませんので、断熱材であるウレタンを充分吹き付けるという方法で断熱性を確保し、原理としては室内で暖まった空気の温度がこの屋根の表面に伝わらなければ、そういう事態は避けられるということです。

それからもう一つ、屋根の表面材。これも再三燻し瓦の色ということで説明してきましたが、一番いいのは絶対手が届かないけれど、チタンです。でも、チタンはすでに前段階で、そこまでお金をかけるべきではないということで、原設計はステンレスと、表面が亜鉛材になっている複合金属を入れてありました。それはステンレスという非常に耐候性の高いものを、金属自体は酸化しやすいですが一定程度酸化するとそれが安定錆になるという亜鉛で、錆びにくいステンレスをコーティングしたというそういう材料を提案していました。これも通常の屋根からすると単価的にはお金がかかるものでしたので、ここではフッ素樹脂加工をしたガルバリウム鋼板というものに取り替えました。

立面図も基本的には雰囲気は大きく変わってはおりませんが、こういうところを構成する素材や窓枠なども、通常より少し手の込んだものを入れていたものを通常品に置き換えたり、そういったことを複合して全体的に単価を下げる方向でやります。一番大きいのがこの屋根で、金属板をフッ素樹脂塗装ガルバリウム鋼板に。中はスチールですが、ガルバリウム鋼板というのは耐候性がよくなるためにそれが一旦コーティングされているものです。更にそれにフッ素樹脂をかけることで耐候性を上げるという製品が出てきていまして、それを採用することにしました。元々のものとフッ素樹脂ガルバリウム鋼板とは厳密に言えば色が違いますが、隣同士に置いておかなければわからないようなもので、同じように燻し瓦調の色で同じ形に仕上げられる予定です。ではフッ素樹脂ガ

ルバリウム鋼板が耐久性として大丈夫なのかという話が出てくると思いますが、これは製品開発されてまだ10年ぐらいです。ガルバリウム鋼板はあります。フッ素樹脂鋼板もあります。ですが、ガルバリウムの上に更にフッ素樹脂をコーティングしたという高性能化したものはまだ10年です。そういったものが今どうなっているか調査したところ、少なくとも10年ぐらいの間で深刻な、例えば汚濁や錆びということが出てきている例はありません。普通、屋根は10年は屋根屋さんが責任施行で保証します。10年経ったらどうなるかというところですけども、今までの経験上、単なるフッ素樹脂鋼板でもそれ以上のものが出ていますので、これは20年、30年のオーダーでは特に見た目が汚れてくるとか、そういうことはない。性能的にはもちろんカバーされている。葺き替えなければならぬという事態は起こりません。

順番は逆になりますけれども、このサッシは少し上等なものが入っていましたが、多少見た目は太くなるものの比較的通常品で構成できるような仕方に変えました。

それから北側の閉架書庫と事務室あたりの四角い部分の外部の仕上げを少し厚めの鉄板で考えていました。それを漆喰調にしようと言っていたのですが、これも鉄板部分がかかなりの金額でいくら交渉しても下がらないので鉄板の使用を諦め、通常のセメント構造に取り替えました。表面は漆喰調に仕上げられると思います。

そして、ここを開ける窓ですが、この窓に関して町長さんから何か小布施のテーマ性をということで宿題が出ていて、7月にちょっとお目にかけてかと思えます。正式にご報告していなかったのが、今日ご報告しておきたい。私は単に枠のようなものというのはここでは調和しないと思って考えた末に、北斎に因んだらどうだろうということを思いつきました。実は北斎は北斗七星がすごく好きだったんです。例えばこれ、わざと北斗七星の柄杓の真ん中の星を抜いて後1個今まさに描こうとしている図です。この1個抜けた星を文昌星というのですが、それをモチーフにして窓を開けたらどうだろうと考えたのが、以前簡単なスケッチでお目にかけてこういうタイプの開口部。このところが文昌星になっています。北斗七星モチーフで窓を開けるというデザインで今は考えています。しかし、この設計変更の中では全体の金額を少し圧縮する為に窓の個数や大きさをもう少し小さくしないと金額に合わない。ですが、中を明るく開放感を持たせたいというご要望が元々ありますから、十分な開放感を感じながら、この意匠を実現できないかなとこれはもう少し詳細を工夫しようとしています。最後に外構ですけども、ここに桜があり、それから、この北斎ホール側に既存の植物があります。それから、まだこの画には写し込めていないですが、元々ここに立っていたヒマラヤ杉を先般こちら側に移植していただきま

した。現在の所、活着しているようで安心してはいますが、それを含めて既存の緑は残して、ここにもっといっぱい緑を植えましょうというのが私の 7 月の段階での提案でした。あいにくそれが今、新たに植える木が一本も入っていないという状態です。これは、来年度以降いろいろな方法を講じて、あるいは皆さんに苗木を植えていただかなくてはいけないかもしれませんが、僕も含めて皆さんで、将来緑豊かな、緑に囲まれた図書館になるように、時間をかけて育てて行くことで補えないかと考えています。それから、元はここにゆったりとした階段状の庭が作ってありましたが、それも、今の段階ではあきらめて単純なスロープの状態にして、この入札金額になっています。大雑把にまとめたのが、今ここに書いてある設計です。これと少し順番が違っているかもしれませんが、お手元のメモは基本的に符合しています。全体の鉄骨構造を曲線材であったものを直線材で。コールドルーフに関して、通気層があったものを通気層がなくて断熱で機能をみる方法に。曲面屋根の材料は亜鉛メッキステンレス鋼板だったものをフッ素樹脂ガルバリウム鋼板に置き換える。これは金額の差がかなりあります。それから、多目的ルームは可動間仕切りがあったものをなしに。外構に関しては、新たに植える植栽があったものをとりあえず今のところなしにする。それから、東側の階段状の庭は、スロープ上に整地するという程度にとどまっています。実際は、この外構に関して、他に備品でもいくつか、当初入れる家具が減っている物があるんですけども、しばらくの間は現在の図書館の家具をお使い頂くとか、年次計画で少しずつ補って頂く。基本的には先程お目に掛けた本棚、テーブルのうちのかなりの部分、これは入ります。基本的な考え方としては、最初に申し上げました、値段に合わせるために小さくしてしまうとか、或いは柱をいっぱい入れてしまうとか、何かを簡単に言うとなしにしてしまうというようなやり方は将来それが欲しくなっても、それを、戻すことが非常に大変になってしまいます。一割縮めて作ってしまうと、一割増やすというのは、殆ど無理な話になるので、ここでは、将来そういう風に悔いが残るような変更をしない。逆に将来何か少しずつ充実させていける種類の物は、今回一年目では、少々諦めていただく。例えば、それは周りの緑であったり、完全に新調された物だけになる家具であったり、というところになります。私としては、今の所この 2 室に分ける間仕切り以外は、今までお話してきたことは基本的に入っていると考えています。以上です。

(委員長) 先生、ありがとうございます。それでは、質疑応答に入ります。先生に直接お答えいただくいい機会ですので、どんなことでも質問してください。

(委員) 先生どうもありがとうございます。非常にご苦勞されたお話を聞かせていただきまして。こういう大きな計画の中で、私ずっと部会に参加していて思ったんですが、あまりにも順調に物事が進みすぎるような気は前からしております

た。何かやっぱり小布施らしいやり方の変更というか進め方とかそういうのはもっと主張していく必要があるなという気がしてしまっていて、4 月以降の色々な方々が参加するワークショップというのを期待していたんです。今回、変わったワークショップになったなど。今までやってきた多くの意見交換が、ここで一種の、雨降って地固まるというような形の変更というか、さらに土台がきちんとされることになれば非常にありがたいとそんな風に今後の事を考えています。そういう面で大きな部分が変わらないことは分かりました。小さな部分はやっぱり気に掛かる場所もありますので、ここですぐに解決できなくても、今後ともそういった問題点があったら、また相談をしながらやっていって頂きたいなと思います。今日言われたガルバリウム鋼板などはちょっと分からなかったりしていますけれど、いっこう良くなるような、多くの煮詰めた話が込められているように思いましたので、是非今後ともよろしく願います。質問は特にありません。

(委員長) どうも、ありがとうございます。いかがですか？

(委員) 屋根を、曲線材を直線材に変えるという事ですが、私たちが今まで描いていたイメージが何かちょっと変わってしまうように思うんです。どんな感じになるか、今は柔らかい感じを描いていますが。

(古谷) そこは最大の苦勞した点です。本当は目に見えるほど、こういう風にやれば良かったかもしれませんが、それでは気が済まなかったものですから、何とか最初からお話しているこの山のような形を維持している範囲でこの鉄骨を真っ直ぐにするというところは、実は組合せ方が非常に複雑な設計になるんです。それで当初は綺麗にそのまま出来る鉄骨のほうを曲げてもらうという選択をしています。ですが、今回はご覧頂くと分かりますが、一生懸命苦勞しながら真っ直ぐなものを繋げる、ということをはこっち方向に繋げる時不思議な角度で繋がったりするんですけど、それを基本的にはやりきりました。そして、一番表面の形はそこからこの必要な高さの下駄を履かすような形で外から見ると殆ど変わらなくなっています。それから、中は元々すのこ状の天井みたいなもので透けています。少し隙間が開いているので、中から注意深い方がご覧になると前はすーっとまるく梁がかかっていたんだけど、今度は真っ直ぐになっていると分かるんですけど、それもそのままむき出しにするのではなく、すのこ状の天井のようなものはやっぱり柔らかい形なりにかけようというふうになにかしています。そういう訳で中からは隙間を覗くと見えていますが、外から見ると、そのイメージは基本的には大きく変わらないつもりでいます。以上です。

(委員) ありがとうございます。それと中の 3 本の柱ですが、今までより細くはならないんですか？

(古谷) 変わりません。それは逆に言うと太くしなかった。コンクリートの柱とかに

しなかった。

(委 員) 太さは一緒なんですね。

(古 谷) 一緒です。

(委員長) 耐震の強度は大丈夫なんでしょうか？

(古 谷) もちろん大丈夫です。

(委員長) こう直線になっていると溶接するんですか？

(古 谷) 直線にした事で耐震の強度がどうこうなる事は全くありません。溶接そのものは梁が曲げてあろうとなかろうと、どちらにしろ丁寧に溶接しないと出来ない種類の話で、それが真っ直ぐになったから簡単になる事はあっても難しくなる事はありませんので、それが耐震性の問題になることはありません。元々私が平屋の構造を提案したのも、平屋にするかわり出来るだけ柱のない空間を作り、将来の柔軟性を確保するためなんです。そうしたのも、全体的にここを二階建てにして、柔軟性を確保するために柱を抜くと、それだけ構造的には厳しくなっていくので、それに比べたら平屋の方が上に乗せるのは人が乗らない屋根だけですからね。ということで、この建物は耐震的には非常に優れている建物になります。

(委員長) ありがとうございます。

ほかに質問ありますか。

(委 員) よろしくお願ひします。お配り頂いたプリントの 5 番目の下側外壁の鉄板仕上げを左官仕上げに変更という所なんですけど、私のイメージですと、左官仕上げと言うのは人の手でやる、いわゆる左官屋さんが入ってやられる。そうすると鉄板仕上げより、左官仕上げの方が人件費がかさむのではないのかなという単純な疑問なのですが、どうでしょうか。

(古 谷) 一般的には仰る点があります。やっぱり人手で作るものの方が最近では手間が掛かって手間代が高いというのもあります。土蔵作りとかでしたら元々左官だからいいんだけど、そうじゃないもので表面に左官の下地を作ろうとするとボードを作って、その上に左官を塗るための下地を作っていきますので、まあまあ手間が掛かるものになるはずなんです。それもあって、当初は、少々厚めの鉄板で作るということを、自分としてはそちらのほうが安くなると思いませんでしたけれど、どっこいどっこいできるんじゃないかという風に思いながらやってきたんですが、元の鉄材が急騰しとても高い物になってしまったので、ここでは手間が掛かっても左官の方が安いと思います。

(委 員) はい。分かりました。ありがとうございます。

(委員長) 施工の期間、完工の予定などをお願いします。

(館 長) これから工事の工程表や電算化の工程表が出てきますが、一応 6 月で工事を終了し、7 月ぐらいにオープンをという風に考えております。実際はその工程表

が出てきてからのミーティングで詰めさせていただきたいということになりますので、今、夏を目指してオープンしたいと考えています。

(委員長) はい。

(委員) よろしくお願ひします。100年間はもつ建物を作ってくださいということで、私たちもこの建物は100年間もつだろう、内装については20年とか30年とか、そういう考えを持っていたんです。今度の屋根の構造とか材料とか、そういうものが変わってきたことによって、100年間もつということに対して、材質が変わっても100年間は持つ建物ですよというような保証はどのようなのでしょうか。

(古谷) 確かに一番最初にご提案したチタンの屋根を使うと、下は腐ってもチタンだけ残るほど強いんです。けれども、純粋にそこまでの性能は必要かどうか。チタンは確かにいいけれど、屋根の皮一枚はいつまでも残っていて、他は錆びたりするんじゃないかって話に成りかねない。そこで、バランスの問題だと思うんです。ここではフッ素樹脂のガルバリウム鋼板にしたことで、メーカーはもちろん10年は保証します。それ以外に実はその下に防水を止める層が元設計どおり画いてありますけど、普通は10年しか保証しない物を21年保障すると言っています。その素材を中に入れていまして、それと金属板が組み合わさることで、普通はどんな建設会社も屋根屋も10年しか保障しないところを21年に延ばすという材料が入っています。実は、表面材のフッ素樹脂鋼板が、腐らないかといわれたらチタンと比べたら、中が鉄ですからいくらコーティングしていても腐らない訳ではありません。ただ、考え方としては100年間もつ建築というのは100年間全く手も入れず何の修繕もせず、放っておいても100年間びかびかのままでいる建築は、実際にはないんです。日本にも100年以上経っている民家はたくさんありますけど、これはやっぱり適切な維持管理をし続けていく事で100年以上持つということなんですね。逆に100年間もつとはどういう事なのか。普通なぜ100年経たずに家を壊すか、立て直すかという、それ以上性能、構造がもたないという事ではなくて、その間取りであるとか、天井の高さであるとか、何かは現在の要求に合わなくなってきた、骨はもっているんだけど建替えるというものが圧倒的に多いんです。だから、実際には100年使い続けられる建築というのは、その物理的な性能以上に、さっき申し上げたような、中がいくらでも模様替えできるとか、そういうことの方がずっと大切なものになってくるんです。表面材はもしかしたら50年目には張り替えていただいた方がいかもしれない。20年やそこらで張り替えるとは思いませんが、40年50年で表面は手を入れていただいた方がいい日があるかもしれない。でもこの建物の骨格自体は、小布施のこの場所にあつて、図書館がどんなに電算化しようと、どういうふうになっていこうと、皆さんがここで交流する拠点として使い続けられるとそういうようなものになっていけるという事で設計し

たんですね。その意味では、絶対 100 年間使い続けられます。それを下手に今の図書館に合わせる為にいっぱい間仕切り等してしまうと、非常に使いにくいものになると思うんです。この場所は恐らく使い続けられると思っています。答えになったようなならないような、半分誤魔化しているように聞えるかもしれませんが、誤魔化しているのではなくて、鉄板使いはもしかしたら 50 年くらい経ったら葺き替えたほうがいいかもしれません。本当は茅葺きだって、もっと手前に葺き替える訳ですから。でも、そこまでは手は掛かりません。多分設備、空調系のものや水を使うものは、15 年とか最大でも 20 年で取替えなくてはいけないと思います。100 年もつもたないも、問題はそういう新陳代謝、取り換え工事がうまく出来るようにできているかという事の方です。そういう事をあらかじめ考えてあれば、それを手入れをして頂く事で 100 年もつという事になります。

(委員) 今の屋根に関連することなんですが、私も先程からそれがすごく気になっていたんです。主婦感覚としては、フッ素樹脂加工というお鍋が売っているんですが、あれを使っているとやはりはげてくるんです。ガルバリウム鋼板というものの自体が、50 年くらいしか持たないんでしょうか？その前にフッ素樹脂塗装をやりかえていった場合には、もっともつものでしょうか。

(古谷) まず、鉄板をそのままにやると昔のトタンみたいな物は表面に亜鉛のメッキがしてあるんですけど、10 年やそこら経つといい感じに錆びてきてしまいます。昔よくあった小屋の波型の屋根みたいに。それではとてももたないので、ガルバリウム鋼板という、表面にガルバリウム樹脂という結晶をくっつけたような種類のものと思ったらいいでしょうか。表面を保護する層がついている鉄板がガルバリウム鋼板です。普通ガルバリウムはブリキみたいに、昔のバケツのような、バケツよりよほどいい、表面に結晶が出来たキラキラした鋼板ですけど、あんな感じに見えるものです。これだけで、20 年やそこらは野ざらしにしても問題ありません。ですが、それにさらにフッ素樹脂をコーティングすることでより耐久力を高めたのがこの製品です。中は鉄ですからチタンのようにいくらむきだしになっても絶対腐食しない金属ではありません。やっぱり仰るように外の皮膜がはげるかどうかにかかっているんですが、幸いお鍋よりはいいですね。お玉でこすることもなし。それから、一番気にするのは大気汚染、高速道路のわきとか大気汚染の広い工業地帯とか、むしろ薬物というか大気中にある汚染物質で腐ったりすることがあるのですが、幸い小布施はそれが無いと思います。ですから、小布施で錆びるようなら、そこら中でその半分の寿命で錆びていることになると思います。基本的には、20 年 30 年は大丈夫ですが、それまで全く見もせず放っておかないで、大事に至る前にそろそろ手を施した方がいいかどうかは皆さんが少し気にかけてやって頂きたい。例えば 30

年くらい経った時にじゃあ、その上にもう一回皮膜コーティングしましょうかとか、あるいは5年後に皮膜をするために少しずつお金を貯めましょうとか、そういう事は考えて頂きたいと思います。どんな建物でも、全く手をかけずにほったらかしにして腐りもしないというのは無いと思います。

(委員) フッ素樹脂加工というのは、20年30年経った時に屋根に登ってやって頂けるものなんですか？

(古谷) 工場でかけるものだから、そのまま上でやるのは補修の程度しか出来ないと思います。例えば、台風の時になんか飛んできて傷ついた所があるとか、そういう程度。ですから、2, 30年経って何かやる時はその上にもう一枚何かを葺くとか、あるいは全体に別のコーティングをかけるとか、そういう種類の事になると思います。少なくとも今より技術は発達しているでしょうから補修材は今あるもの以上の物は出てくると思います。

(委員) もう一点、壁ですが、先程のお話では北斎の北斗七星を取り入れた壁面という事で、今ここに模型としてあるこういうものは見た目も変わってきますか。

(古谷) こちらの小さい模型についている様な窓を作りたいと思っています。

(委員) 窓が少なくなるのですね。

(古谷) 三角の基本部分はあります。基本的に前のおり全部、ガラスと壁の組合せです。

(委員) こうなるわけではなくて。

(古谷) 違うんですよ。その後ろの本のお蔵と言ったほうです。

(委員) そうですか。ありがとうございました。

(委員長) 鋭いご質問ありがとうございました。他にはいかがですか？

(委員) 鉄骨材が値上がりしたのと同時に最近、油ものが値上がりしましたよね。暖房の熱源が何か覚えていないのですが、この大きな部屋を充分暖めるのは可能と思いますが、参考までに教えてください。

(古谷) これは原設計と今も変わっていません、熱源としてはガスを考えています。ガスも日本で産出しているわけではないので、値段がどうなるかという問題もありますけど、原油高が直接、灯油とか重油とかへの影響は今のところないんですね。それなりに安定供給されるはずだと考えております。

(委員) 石油の値上がりに比べればまだ上がってないと思うけど、上がってほしくないですね。

(古谷) 天然ガスについてはまだそんなに大きくは変わってないと思います。将来何が起こるかわかりませんが。

(委員) 東側のプールとの間の階段をスロープにするという事ですが、私としては、今でも高齢ですけど、スロープの方が階段より良かったなと思っています。それに車椅子の場合もいいんじゃないかと思っています。勾配はそんなに急ではな

いんですよ？

(古 谷) 大変心苦しいんですけど、スロープ状という感じなんです。ゆったりした階段が入れてあったところを土をならした状態で今回は終わってしまうという事で、斜面状といったほうがいいでしょうか。要するに、小学校の校庭と段差がありますので、今ちょっと駐車場風になって階段がついていますけれど、あの落差を斜めにすーっと撫で付けたような、表面は土で出来ている斜面になります。そこに来年以降、木を植えたりしながら、少しずつ整地していくという外構を、別に考えられるようにしておくという状態です。だから、車椅子がうまく通れるスロープが舗装されているというのとはちょっと違うんですね。

(委 員) 勾配はいくつくらいですか。

(古 谷) 今見ていただくとその状態って事らしいです。普通の車椅子の勾配よりちょっときついように見えますかね。

(参 事) それは、セメントとかではなくて、その状態でおいておくという話ですよ。

(古 谷) そうです。外構から抜いてしまいます。

(参 事) そうしたら、そういうご意見あれば将来的に考えてみるのもどうでしょうね。今の段階ではその状態でそのままおいておくということで。将来に、階段がいいかスロープがいいか、外構の工事のときに検討させていただく形ですかね。

(古 谷) つまり、どうとでもなる状態のままになっているんです。

(委 員) 今、お話の中で 20 年度の話プラス 21 年度と色々と考えられる話がありました。この全体会とか、委員会とかそういったものが 20 年度を越えて次に行くという関係もあると、ちょっと 21 年度の方も覗きたくなるんですね。組織はいつでもいいんですけど、その時に、予算的に追加と言うか、21 年度にまたひとつの方針を作って議会のほうへの打診というかそういったものを想定していくことも今後考えているかどうか。今日の説明会には直接関係ないけれど、そういう方向づけに関しては今後どうなるのかちょっと先ほどから聞いていて段々心配になる面かなという感じがします。今、教えていただける範囲があれば、町長さんにお伺いしたいと思います。

(町 長) 21 年度以降どうなるという話でしたけど、当初、20 年度に完成させてオープンさせたいということがあったわけですが、ちょっと叶わずに 4 月の終わりくらいになるということで 21 年度に食い込んでいた訳です。さらに、本当に大変なことですが、6 月までかかってしまうという事で、これは 21 年度にかけての今の状態では今の予算もずり込んでいくわけです。さらに、そういう中で、皆さん方から頂いた機能を落とすことなくという事で先ほどからご説明頂きましたけれども、そうはいつでもこういう風な外構を目指していたんだけどこの辺はちょっと我慢をしようとかですね。当然これを進化させて行く為には、図書館というものは、皆さんと一緒に作り上げていくというのは最初からの目標で

すので、ご意見いただきながら、21年度、或いは22年度までかかっていくだろうという風に思います。それから、その為には組織という事ではなくて建設運営委員会ということなんですけど、運営委員会に近い形になろうかと思いたすけど、そういう中で実際に今度は運営をしていく、或いは使っていただく、多くの皆さんに使って頂きたいんですけど、その中の声で、そういうものも今後も充分必要だという風に考えています。

(委員長) ありがとうございます。主に外構と備品が、多分、21、22に欲しくなるというか、追加になるような気がしますので、その辺り、私たちの関心事になっていくと思います。他はどうでしょうか？はい、どうぞ。

(委員) 植栽について質問です。温室の予算をどのくらいとっているのかと。もう一つ、はじめ家だけ建てて、周りが何もない状態だとなんだか変な感じで、多少は植えるのか。それも運営委員会の方でも検討しなくてはいけないので。まるっきりない状態で始めるのか、それともある程度植木をやるのか、お聞きしたい。

(古谷) 私から答えられるのは、現状どうなっているかという事です。さっきお示した植栽以外は、すでにそこに生えているもの以外は、今、一本も植える予算には入っていません。元々、そこにどのくらい見ていたかという、高木低木合わせて250万円くらいだそうです。周りに少し緑を植えましょうと。これも、それで充分かは分かりませんが、年月かけて育てるという事を期待して、そのくらい見ていたのですが、今回の事情でそれは無くなりました。今そこに生えている木以外は何も植えないで、あの藤棚だけはいい場所に移し変えますが、それ以外は今は植えるものはないという状態です。

(参事) 植栽につきましては、先程町長からも申し上げましたが、今後、21年度22年度で、皆さんに植えて頂いたり、どんな方法が考えられるかということを経営運営委員会でご検討頂きながら、予算付けが必要なものについては予算付けをしていきたいと思いたすので、よろしくお願いたしたいと思いたす。

(委員長) 他にいかがですか？どんぐりから苗を育てて皆で植えれば、タダじゃないかという議論も聞いたことありますし、この辺もクヌギ原町とかいう名前で江戸時代から、もっと昔からあったそうで、クヌギが自生の植種としては良いと聞いていますし、そんなことも織り交ぜて、みんなで議論を楽しめばいいなと思いたす。それでは、これで質疑応答は一旦打ち切ります。これから建設が始まりますと今まで以上に先生も小布施にいたることが多くなれるようなので、こんな機会も今まで以上にもてると思いたすので、それに応じてまた質疑の時間もとりたいと思いたす。

(2) 今後の進め方

(委員長) 今後の進め方に入ります。これは大きく分けて電算化や運営の関係のソフトの部分と、建設のハードの部分両方なんですけれど、館長にご説明頂きます。

(館長) まず、電算化については、先程も言いましたけれど早稲田システム開発という会社に決まりました。詳細の打合せはこれからですので、詳細が出てから皆さんと一緒に検討したり、実際に作業に入っていくことになると思います。とは言いましても、まず小布施に合った電算化のシステムを組むということで、年内はこのプログラムを作り上げていきます。既存の物であります、それを小布施流に作り上げていく。それも金額の中に全部入っていますので、その作業を準備室、また図書館の司書と、業者を中心にして一緒に作り上げていきます。それが終わると、年明けぐらいに入って、実際今度は入力作業という事で、これも町民の皆さんにご協力頂きながら、どんどん入力していくという所が、電算化最初のやり方です。また、この建設運営委員会に関しましても、今日、変更の報告を頂きましたが、私たちが考えた当初の最終報告から、そんなに変わっていない部分と後回しになった部分があると思うんです。それで、実際これから運営に関して、それまでも色々な意見が出ていましたが、これからもっと運営に対しての意見交換をさせていただきたいと思います。先程、町長からリスタートという言葉がありましたが、まさにリスタートだと思って、運営の方をどういう風にしていったらいいか。それに対してたたき台という訳ではありませんが、皆さんの意見をもう一年ぐらい聞かせて頂いていますので、私の方から、こういう風な運営が考えられるのではないかとこのを次回までに出させて頂きます。それをキーにして、そんなことは止めろとか、それはいいとか、そういう意見を交換しながらやっていったらどうかなという風に思っています。当初から図書館交流センターということで、いろいろな機能を持たせていますので、その点を皆さんと考えながら、今図書館の利用者の3倍を呼ぼうと。それだけの利用者があるというふうに皆さんで考えていこうとスタートしていますので、その辺を一緒にやっていきたいと思っています。さっきも議論ありましたが、植栽の事などは利用者が増えていって、その機運が高まっていけないと、なかなか予算が付けてもらえない。もちろん僕の責任上予算を取っていきますけれど、やっぱり利用者が増えて機運が高まるって事が一番お金もついてくるのかなって思っていますので、そういうような目線でも、皆さんが利用価値がどんどん上がるような図書館の運営という事を一緒にこれから考えてまいりたいと思っています。ですので、次回からはこういうふうな考え、少しでもアイデア出しを皆さんの中でしていただければと思っています。それから起工式が、先程もチラッと出ていましたが22日。詳細はこれから決めますが、決まり次第何らかの形でお知らせしたいと思っています。

(3) その他

(委員長) それではその他ということなのですが、しばらく2ヶ月も空白あったし、ようやくこれで動き出すという事で、できるだけ全体会は頻繁に開こうということで、1ヵ月後の11月の10日前後にまた全体会を開きたいと思っていますので、また、是非お集まり頂きたいと思います。他に、何か意見などありますか？先生はよろしいですか？

(古 谷) 冒頭にもお話しましたが、皆さんにご心配お掛けしまして、誠に申し訳ありません。これでやっと、再スタートして工事に入っていけるということで、また気持ちを引き締めていきたいと思っています。何しろ、僕は建築はもちろん、設計を固めて、その通り施工して、工事完了して、竣工、引渡しをすれば、それで、任務が達するのかもしれないですけど、他の施設の時にもやってきたのですが、できるだけ皆さんと一緒に、これをどういう風に作っていかうか考えてきました。でも、ここから先はどういう風に使っていかうか、できた暁にはどういうことをしようか、その為にはこんな企画はどうだろう？こんな使い方はできないか？というのを、是非、皆さんと話し合いたいと思うんですね。というのはこれは、皆さんがよく使い道の分かっているテレビとかカメラとか、そういう種類のものではないんです。これは世の中に一個しかないもので、使い方がどこにもここにもあるものではありません。これを、どういう風にうまく使っていかうか皆さんで思いついて頂いて、私たちも色々、こういうのはどうでしょうと言いますが、そういう事が積み重なっていくと実際に完成した時に、さあ使うぞ！という感じになれると思うんですね。だから、ここから工事の間が、出来たらどうしよう？こうしようとする大事な時期になります。もう形が決まっているんだからいいんじゃないかと思わずに、是非、全体会に参加していただいて、これが出来たらこうするぞって、運営する方のモードに切り替えて、どんどん盛り上げていきたいと思っていますので、是非よろしく願います。

(委員長) どうもありがとうございました。それでは、第11回の建設運営委員会を閉じたいと思います。どうもありがとうございました。

6. 閉 会